UnitBase テクニカルガイド





UnitBaseの導入・バージョンアップを行う上での注意点、個人設定・ 管理画面の各種設定項目の内容やポイントなど、導入から初期構築段 階のシステム設定を取り上げた資料です。

Chapter 1 は主にUnitBaseのシステム全体を運用・管理される方を対象とした内容です。UnitBaseに管理者ユーザーでログインできること、 UnitBaseがインストールされているサーバーを操作できることが前提 となります。

<u>Chapter 1: 導入・初期設定</u>

- ◆ 導入・バージョンアップ
- ◆ ヘルプ・マニュアルを確認する
- ◆ 使い方ガイドを確認する
- ◆ 初期設定
 - UnitBaseの各種設定画面
 - ユーザー・グループの管理
 - ・ ユーザー権限の設定
 - ログインの設定
 - パスワードポリシーの設定
 - データベースメンテナンスの設定
 - ・ 手動バックアップ/リストアの手順
 - メール送信設定
 - メール受信設定
 - アクセスログの記録
- ◆ メンテナンスモード
- ◆ 環境のチューニング
- ◆ その他さまざまな設定

株式会社ジャストシステム



導入・バージョンアップ

UnitBaseの導入・バージョンアップ

□ 新規インストール

インストーラーを実行してウィザードに従って進めていくだけで、簡単に導入で きます。

◆ 新規インストール時のみ設定可能な項目
 ✓ プログラムのインストール先フォルダ
 ✓ データ保存先フォルダ (※後で移動するには手作業での設定変更などが必要)
 ✓ サンプルデータベースをインストールするかどうか

I バージョンアップ

既存環境に上書きインストールでバージョンアップできます。 登録されているレコードやユーザー、各種設定はすべて引き継がれます。

✓ 新バージョンのリリース時には弊社からメディアをお送りします

✓ バージョンアップ前に必ずバックアップを取っておきます

 ✓ バージョンアップ中はUnitBaseに接続できなくなるため、事前に利用者 に日時を周知しておきます

D アップデートモジュール

不具合修正や小規模な機能追加を含むパッチを不定期でご提供します。 (導入手順はアップデートモジュールに付属の手順書をご確認ください) 登録されているレコードやユーザー、各種設定はすべて引き継がれます。

✓ アップデートモジュールは弊社サポートサイトでご提供します
 ✓ アップデート前に必ずバックアップを取っておきます
 ✓ アップデート中はUnitBaseに接続できなくなるため、事前に利用者に日時を周知しておきます



ヘルプ・マニュアルを確認する

UnitBaseの設定や操作に困った時は

UnitBaseの設定や操作で分からない点や詳細を知りたい点が生じた場合には、 UnitBase画面右上のユーザー名をクリックして表示されるメニューから各種の ヘルプやPDFマニュアルで調べることができます。

また、ヘルプ・マニュアルの内容をまとめて検索できるサイトも用意しており、 同じく画面右上のメニューから検索サイトにジャンプすることができます。 調べたい操作の内容や、機能名・設定項目名などを入力して検索することで、 該当するヘルプ・マニュアルの説明箇所を簡単に調べることができます。





使い方ガイドを確認する

UnitBaseの設定や操作に困った時は

画面右上のメニューからは、UnitBaseの基礎からさまざまな機能の詳細まで、 体験・学習いただけるコンテンツへのリンクもご用意しています。

- ・ヘルプ・マニュアル・テクニカルガイド検索
- ・動画とテキストでUnitBaseの基本的な使い方を説明した「スタートガイド」
- ・今ご覧いただいているこの資料「テクニカルガイド」

	UnitBase管理者	
	🧀 木一ム切替	画面右上のユーザー名をクリック
	◎☆ 個人設定・管理	
) 17	マハレプ管理者ガイド (PDF)	
T	操作ガイド(PDF) 帳票活用ガイド(PDF)	
	外部データ自動取り込みガイド(PDF) データインポート・エクスポートガイド(PDF)	資料サイトへのリンク
	 へルプ・マニュアル検索サイト 使い方ガイド資料公開サイト 	
) DinitBase スタートガイド テクニカルガイド	
7	UnitBase 使い方ガイド(ご契約 UnitBaseの基礎からさまざまな機能の詳細まで、お客様に体験・学習いただ 動面やドキュメントでUnitBaseの基礎から応用まで幅広く解説しています。	わ中のお客様専用ページ)
	機能や使い方でご不明な点は、ヘルプ・マニュアル・テクニカルガイドを検 ヘルプ・マニュアル・テクニカルガイドから検索	^{& してお調べいただけます。} 使い方ガイド資料の公開サイトが開く
	動画&テキストで理解を促進 F9-74-105-750 	こみる ガイド seを使い始めるお客様向けに、初歩的なデータベース構築や基本的な機能の使い ストで分かりやすく解説しています。 loo体験・学習として、まずはこちらのチュートリアルをご覧ください。
	UnitBaseの 全てを わかりやすく 解説 ビービービービービービービービービービー 解説 レーロション	和る ルガイド 培設定から、データベースやクイックアクションナビの作成・公開手順、 さまざきな機能の紹介まで、UnitBaseのすべてを綺麗的に解説する全10章の資 築・運用を始めるにあたっての学習材料としてはもちろん。既に運用されている seをより深くご理解いただく上での参考資料としてご活用ください。

初期設定



UnitBaseの各種設定画面

□ 「個人設定・管理」画面にアクセスする

UnitBaseのさまざまな基本設定は「個人設定・管理」画面に集約されています。 インストール後は、UnitBaseにあらかじめ準備されている「administrator」 ユーザーでこの画面にアクセスし、設定項目の確認や初期設定などを行います。 また、運用開始後も必要に応じてアクセスし設定変更などを行います。

「個人設定・管理」画面には、UnitBase画面右上のユーザー名をクリックして 表示されるメニューからアクセスできます。



初期設定



□ 管理者ユーザーの登録

UnitBaseを使用するユーザーの管理やシステム保守を行う担当者を置きます。 UnitBaseに最初から登録されている管理者(administrator)以外に、複数人で システム管理を分担することができます。



 (\mathbf{P})

管理者の権限を持つユーザーはすべてのデータ・設定にアクセスでき、 変更・削除などを行うことが可能です

初期設定



□ 一般ユーザーの登録

UnitBaseを使用するユーザーを登録します。

個人設定・管理画面から1ユーザーずつ登録する方法と、CSVファイルから一括で 登録する方法があります。CSV取り込みはコマンドラインツールでも可能です。



※ユーザーのCSV取り込みで用意するファイルの書式など、詳細はマニュアル「管理者 ガイド」>「6.1.2 ユーザーをまとめて追加」を参照

初期設定



Active Directory連携

社内ドメインのActive Directory(以下AD)と連携することで、ログインIDを 元にして、ユーザー情報をADから取得することができます。



- ✓ AD連携を行うにはUnitBaseサーバーがADドメインに参加している必要 があります
- ✓ AD連携の前提条件や詳細はマニュアル「管理者ガイド」の「1.5. 動作 環境」「4.5. Active Directory 連携の設定」を参照してください

初期設定



□ 別システムとの連携(簡易シングルサインオン認証)

社内のポータルサイトなどから認証情報つきでUnitBaseにリンクし、簡易的にシ ングルサインオン認証を行うことができます。 ログインIDのみでのSSO、ログインIDとパスワードのセットでのSSOを選択でき、 POSTまたはGETパラメータでUnitBaseに認証情報を渡します。 ログインIDのみで簡易シングルサインオン認証する設定にした場合は、ユーザー 種別として [外部ユーザー] が選択できるようになります。



簡易シングルサインオンとAD連携を同時に利用することはできません Administratorユーザーはシングルサインオンすることはできません

※簡易シングルサインオン認証の詳細はマニュアル「管理者ガイド」> 「8.27. 簡易シン グルサインオンの設定」を参照

初期設定



ロ グループの登録

作成したユーザーを「グループ」の単位でまとめることができます。 グループ登録は必須ではありませんが、フォルダーやデータベースなどのアクセ ス権を部署やプロジェクトなどの単位でまとめて設定でき利便性が向上します。 グループ作成は、画面およびCSVファイルの一括取り込みにて行えます。CSV取 り込みはコマンドラインツールでも可能です。



✓ Active Directory連携を行っている環境でも、Active Directoryから グループの情報を取り込むことはできません

※グループのCSV取り込みで用意するファイルの書式など、詳細はマニュアル「管理者 ガイド」>「6.2.2 グループをまとめて追加」を参照

初期設定



ユーザー権限の設定



□ ユーザー管理ポリシー

初期設定では一般ユーザーにメールアドレスやパスワードの変 更が許可されています。またユーザー選択時に無効ユーザーが 表示されます。

これらの許可・表示を変更する場合はこのメニューから設定を 変更できます。

ロ グループ管理ポリシー

初期設定では一般ユーザーにもグループの作成が許可されています。 管理者だけがグループの作成・管理を行う運用にする場合はこのメニューから設定を変更できます。

□ フォルダー作成権限

初期設定ではすべてのユーザーがフォルダー作成権限を持って います。 特定のグループやユーザーだけにフォルダー作成権限を持たせ

る場合は、このメニューから権限を与えるグループ・ユーザー を指定することができます。 ※管理者ユーザーは設定にかかわらずフォルダーを作成できます。

D クイックアクションナビ

初期設定ではすべてのユーザーがアクションカテゴリー作成権 限を持っています。 特定のグループやユーザーだけにアクションカテゴリー作成権 限を持たせる場合は、このメニューから権限を与えるグルー プ・ユーザーを指定することができます。 ※管理者ユーザーは、設定にかかわらずアクションカテゴリー を作成できます。

□ 決裁代理管理ポリシー

初期設定では、ユーザーは自分自身で決裁代理者を設定する権 限を持っています。 管理者ユーザーのみが決裁代理を管理できるようにする場合は、 このメニューから設定を変更できます。

□ 決裁ライン管理ポリシー

初期設定では、ユーザーは自分自身の決裁ラインを編集する権限を持っています。 管理者ユーザーのみが決裁ラインを管理できるようにする場合は、このメニューから設定を変更できます。



ログインの設定

□ ログイン方法

「ユーザー・グループの管理」の「Active Directory連携」でご説明したADとの 連携を行い、UnitBaseユーザーとしてADユーザーを登録している環境では、コン ピューターにログオンしているADユーザーでそのままUnitBaseにログインするこ とができます(シングルサインオン/SSO)。 ログイン方法の設定は「ログイン」メニューから行います。

- ■自動的にログインする(SSOのみでログインする) ADユーザーのログインはシングルサインオンのみで可能です。 ログインフォームにADユーザーのID・パスワードを入力してもログインは できません。
- ■フォームでログインする ログインフォームにADユーザーのID・パスワードを入力してログインします。 シングルサインオンはできません。
- ■「自動的にログイン」と「フォームでログイン」を併用する シングルサインオンとログインフォームのどちらからでもADユーザーでの ログインが可能です。

ログインしたままにする期間

UnitBaseのログイン画面で [ログインしたままにする] を有効にすると、ログア ウトせずにWebブラウザを終了した場合、ここで設定した期間はログイン操作を 省略してUnitBaseの利用を再開できます。

ログインしたままにする期間	
ログインしたままにする期間:	5日 ※0を設定すると、ログイン画面に「ログイン」、たままにする」を表示させないようにできます
	x 0.68229 9 C(1) 1) BAR (1) 1) 0/288 (299) 648/3 C(80) 6) C(C87)

初期設定



パスワードポリシーの設定

パスワードポリシー

Unitbaseのログインに利用するパスワードのポリシーを細かく設定します。 社内のセキュリティーポリシーに合わせた運用が可能になります。

い UnitBase :≡ アクションナビ	🖿 ホーム OY 個人設定・管理	パスワードの最	小文字数を指定
	パスワードポリシー		
<u>11</u> グループ	パスワードの最小文字数:	8 文字	
2000年7日 1日	☑ 詳細なパスワードポリシーおよびアカウントロックを有効にする	パフロード右効	期阻むどを設定
つう クイックアクションナビ	詳細なパスワードポリシー		別収るこで設定
₰→→ 2→ 2→ 2→ 2→ 3→ 3→ 3→ 3→ 3→ 3→ 3→ 3→ 3→ 3	パスワードの有効期間:	90日 🗌 無期限にする	3
€22決裁ラインの変更 ▲。決載ラインの変更	バスワードの変更を勧める期間:	5 日	
	重視を禁止する回数:	5 🛛	
─ メール送信	パスワードの複雑さ:	限なし ▼	
▶ メール受信	ፖክウントロック		
□ ファイルフィールド ■ データベース メンテナンス	アカウントがロックされるまでのログイン失敗回数:	10 回 ロアカウント	をロックしない
□ □ ヷイン □	アカウントのロックが自動的に解除されるまでの時間:	30 分 ■ 無期限にす	3
194>2+ 9	ログイン失敗回数がリセットされるまでの時間:	30 分	
≗パスワードポリシー		•••	
□	保存	アカウントロッ	クの設定
№ メンテナンスモード			
■フィールドの一括追加・編集			

初期設定



データベースメンテナンスの設定

□ バックアップ・最適化

問題発生時にデータや設定情報を復旧できるよう、定期バックアップを設定して おくことを強く推奨しています。

また、UnitBaseの内部データを整理し効率よくデータベースを利用するため、定 期的に最適化を実行します。

	個人設定	データベース メンテナンス	バックアップスケジュールを有効化し、バック アップ先フォルダーや実行曜日・時刻を設定			
	(1) 個人情報・パスワード	バックアップ・スケジュール				
	▲ 決裁代理					
	₹ ₂ 決裁ライン	🗹 バックアップ・スケジュールを	有効にする			
UnitBaseの管理		バックアップ先フォルダー:	C:¥UnitBase¥backup			
	<u>▲</u> ユーザー	バックアップを実行する曜日:	□ 日曜 🗹 月曜 🗹 火曜 🖉 水曜 🖉 木曜 🗹 金曜 🗏 土曜			
	<u> い</u> グループ の グループ 管理ポリシー	バックアップを実行する時刻:	00:00 🕒			
	コオルダー作成権限	保持するバックアップの個数:	5 個			
			前回設定なし 最大数も設定でき、古いものは			
	▲ 決裁代理の変更	則凹バックアップ美行結果:	同回美行なし 目動削除される			
	≜ _≧ 決裁ラインの変更	最適化・スケジュール				
	− ² ² ² ³	最適化を実行する曜日:	✔ 日曜 □ 月曜 □ 火曜 □ 水曜 □ 木曜 □ 金曜 □ 土曜			
	≗ 役職	最適化を実行する時刻:	00:00 🕒			
[データベースメンテナンス]		前回最適化美行日時:	2017年07月30日 最適化の実行曜日・時刻を設定			
ر الح ا	^も ヽ <i>、</i> ファイルフィールド	前回最適化実行結果:	成功			
	🖹 データベース メンテナンス	検索設定				
÷.	0 0カイン	大文字・小文字を区別しない:				
	□グインユーザー					
	ログファイル	保存				

 \bigcirc

✓ バックアップ実行時刻、最適化実行時刻には、深夜など利用頻度が
 少ない時間帯を指定してください

 ✓ 同一のWindowsドメイン内にある共有フォルダーをバックアップ先に 指定することも可能です
 ※共有フォルダへのアクセス許可設定などが必要になります



■定期バックアップ

設定したスケジュールに従ってバックアップが自動実行されます。 スケジュールには複数の曜日を指定でき、実行する時刻も指定できます。 実行時刻には深夜など利用頻度が少ない時間帯を指定してください。

バックアップしたデータは、次のような場合に運用環境を復元するのに使用します。

- ・システム障害などにより、設定やデータを破損した
- ・過ってデータベースを削除したなど、データを過去の状態に戻したい

バックアップ対象となるのは以下のデータです。

- ・すべてのデータベースデータ
- ・設定ファイル
- ・バージョンファイル
- ・Active Directory連携用設定ファイル

バックアップ先フォルダーには、UnitBaseのインストール場所とは別のドライブを指定する ことをお勧めします。可能であれば、ハードウェア故障などに備え物理的に別のハードディ スクを指定されるとより安全です。

同じWindowsドメインのネットワーク上にある共有フォルダーをバックアップ先フォルダー に指定する場合は、共有フォルダーに対して、UnitBase をインストールしたサーバーコン ピューターからのアクセスを許可する必要があります。

※設定方法の詳細は管理者ガイド [7.6. データのバックアップ] を参照ください。

定期バックアップの実行結果は [前回バックアップ実行日時] で確認できます。 バックアップが実行された日時と、「成功」「失敗」「前回実行なし」の実行結果が表示さ れます。「失敗」と表示されている場合はその右横に表示される [詳細] をクリックすること で実行結果の詳細情報を参照できます。

■データベースの最適化

サーバー内に残った一時ファイルを削除したり、データを効率よく処理したりできるように 定期的にデータベースを最適化するように設定します。

データベースの最適化は、ユーザーが使用していない時間帯に、週1回程度実行することをお 勧めします。

データベース最適化の実行結果は [前回最適化実行日時] で確認できます。

最適化が実行された日時、「成功」「失敗」「前回実行なし」の実行結果が表示されます。 「失敗」と表示されている場合はその右横に表示される [詳細] をクリックすることで実行結 果の詳細情報を参照できます。

初期設定



補足:手動バックアップ/リストアの手順

手動でのバックアップ即時実行、ならびにバックアップしたデータのリストアは、 UnitBaseサーバー上にインストールされているツールを使って行います。



Windows スタートメニューの [すべてのプログラム] > [UnitBase] より、バックアップツールやリストア ツールを起動します。

※Windowsのバージョン等によって画面は 異なります



リストア実行ツール



バックアップデータ出力先のフォルダー を指定して [バックアップ実行] ボタン をクリックすると、即時でバックアップ を実行できます。

バックアップデータが保存されている フォルダーを指定して [リストア実行] ボタンをクリックすると、バックアップ データが復元されます。



メール送信設定

□ メール通知を行うための設定

UnitBaseでメールによる通知を利用するためには、メール送信サーバーの設定が 必要になります。





メール受信設定

□ メールによるレコード登録・更新を行うための設定

UnitBaseでメールによるレコード登録・更新を利用するためには、メール受信 サーバーの設定が必要になります。



 (\mathcal{O})

受信メールアドレスとして設定されたメールアドレス宛のメールは、取 込の成功・失敗にかかわらず、受信サーバーから消去されます。そのた め、必ずメール受信機能に専用のメールアドレスを用意してください。



アクセスログの記録

ユーザーの利用状況や操作内容を後から確認できるようにする場合は、アクセス ログの記録を有効にします。

				_
個人設定	ログファイル			
🕕 個人情報・パスワード	ロガファイル管理			
▲ 決裁代理	19777710百年			
₽ ₂ 決裁ライン	ログの出力レベル:	通常	-	
UnitBaseの管理	ログの保存日数:	30	日間	
<u>೩</u> ユ−ザ−				
<u> 11</u> グループ	アクセスログ管理 ―			
12g グループ管理ポリシー	☑ アクセスログを有	効にする		
📄 フォルダー作成権限				
クイックアクションナビ	ログの保存日数:	30	日間	
24 決裁代理の変更				_
♣ ₂ 決裁ラインの変更	保存	[アクセスロク チェックを入れ	を有効にする」 に 1る	
♣ ╬ おうイン管理ポリシー) <u> </u>		_
2. 役職				
🖂 メール送信				
🖂 メール受信				
] ファイルフィールド				
コグファイル]を開く				
🧕 ログインユーザー				
■ ログファイル				
サーダペース レコート数	•			
₽ ₀ メンテナンスモード				

- ※データベースの設定によって詳細なレコード操作内容をログ出力することができます。 詳細は後の章でご説明します。
- ※アクセスログに出力される内容の詳細は下記のマニュアルを参照してください。 「管理者ガイド」>「付録7. アクセスログの内容」



メンテナンスモード

メンテナンスモードに切り替える

UnitBaseのアップデート作業や、データベースの構成変更、業務時間内の手動 バックアップ実行など、一般ユーザーの作業を抑制したい場合は、メンテナンス モードを有効にすることで対応します。

メンテナンスモードを有効にすると、一般ユーザーのログインは禁止され、また ログイン中の一般ユーザーは強制的にログアウトされ実行中だった処理はキャン セルされます。





環境のチューニング

セキュリティソフトの設定変更

UnitBaseの動作速度を向上させるためには、アンチウィルスソフトやファイア ウォールなどのセキュリティソフトによる監視や制限の対象から、UnitBaseを除 外する必要があります。

UnitBaseサーバーにセキュリティソフトがインストールされている場合は、お使いのソフトウェアのマニュアル等を参照し、UnitBaseのプロセスやフォルダー、 ポートなどをリアルタイム監視やスキャンの対象から除外します。

□ スキャンや監視の対象から除外するプロセス

次のプロセスを、スキャンや監視の対象から除外します。

- java.exe
- tomcat8.exe
- pg_ctl.exe
- postgres.exe
- unitbase_dataexport.exe
- unitbase_dataimport.exe
- unitbase_userexport.exe
- unitbase_userimport.exe
- unitbase_groupexport.exe
- unitbase_groupimport.exe
- unitbase_lineexport.exe
- unitbase_lineimport.exe

□ スキャンや監視の対象から除外するフォルダー

次のフォルダー配下にあるフォルダーおよびファイルを、スキャンや監視の対象 から除外します。

- ・UnitBaseのインストール先フォルダー
- PostgreSQLのデータフォルダー

 (※データ保存先フォルダーをUnitBaseインストール先フォルダー以下から 変更した場合のみ)
- ・ファイルフィールドの「保存先ルートフォルダー」として指定しているフォルダー (※ファイルフィールドのストレージ保存を有効にしている場合のみ)

アクセスを許可するポート

次のTCPポートへのアクセスを許可します。

- ・80 UnitBaseのWebサーバーが利用します(※)
- ・25432 UnitBaseのデータベースサーバーが利用します
- ※Webサーバーが利用するポート番号を変更した場合は、変更後のポート番号への アクセスを許可します。

その他さまざまな設定

ご利用の環境や目的に合わせたさまざまな設定

UnitBaseには、ここまでにご説明してきた設定以外にも、ご利用環境に合わせたさまざまな設定 項目があります。詳細は各種マニュアル・ヘルプをご参照ください。

ここでは「管理者ガイド」の「8. 利用環境に合わせた設定」から、この資料では取り上げていない主なトピックの見出しをご紹介します。

- メモリ増設後の作業 UnitBaseをインストールしたサーバーのメモリを増設した場合に、UnitBaseで利用できる メモリサイズや扱えるデータ数の変更を行う際の手順をご説明しています。
- ホーム画面「お知らせページ」のカスタマイズ
 ホーム画面の画面右側に表示する情報をカスタマイズできます。
- 通知メール本文に記載するURLのホスト名の変更 通知メールの本文に記載されるUnitBaseのURLのホスト名部分を変更できます。
- セッションに関する設定の変更
 セッションタイムアウト時間、ユーザーごとのセッション数、セッションの生存時間を変更できます。
- データ保存先フォルダーの変更 UnitBaseのデータ保存先フォルダーを変更する手順をご説明しています。
- データ保存先のストレージ種類の設定 データ保存先ストレージにSSDを利用している場合は、HDDの場合と比較して、作成可能 な総レコード数の上限が大きくなります。その設定変更手順をご説明しています。
- レコードに添付したファイルの保存先フォルダーの変更
 ファイルフィールドのファイル保存先フォルダーの変更手順をご説明しています。
- ユーザー指定休日の設定
 日付選択パネルやデータベースのカレンダー表示で表示する独自の休日を設定できます。
- ユーザー指定就業日の設定
 日付選択パネルやデータベースのカレンダー表示で表示する独自の就業日を設定できます。
- グループ数の上限の変更 作成できるグループ数の上限を設定できます。
- データベーステンプレート保存数の上限の変更
 1つのデータベーステンプレートに保存できるデータベース数の上限を変更できます。
- ●検索対象とするフィールドの設定 データベース閲覧画面の左上の検索窓から検索した際に、使用中のレイアウトに表示され ていないフィールドも検索対象に含めることができます。
- [レコードコピー設定] ダイアログボックスの操作形式の変更

[レコードコピー設定] ダイアログボックスでユーザーを選択するときの操作方法を、ボタ ンで操作する形式とメニューで操作する形式から選択できます。

その他さまざまな設定

ご利用の環境や目的に合わせたさまざまな設定(続き)

- ユーザー情報アイコンの表示設定の変更 ユーザーフィールドや [ユーザー選択] ダイアログボックスなどで、ユーザー名やログイン IDを表示する青丸囲みの「i」のアイコンを非表示にすることができます。
- 和暦表示時の新元号の設定 元号が変更された場合に、和暦表示で使用する新しい元号を追加できます。
- ●レコードの排他制御の設定
 同じレコードに対する編集を行おうとした場合に、排他制御を行う設定を有効にできます。
- 1ユーザーが同時に開くことができる [レコードの編集] ダイアログボックス数の設定
 1ユーザが同じレコードに対して「レコード編集」ダイアログボックスをいくつ開くことが可能かを設定できます。
- [レコードの編集] ダイアログボックスでEnter キーを押下した場合の動作の変更 [レコードの編集] ダイアログボックスでEnterキーを押した場合の動作を変更できます。 エンターキーを押しても何も行わない設定も可能です。
- カレンダーのラベルの設定
 カレンダーのラベルを折り返し表示する場合の最大文字数を設定できます。
- ●時刻入力を形式をドロップダウン形式に変更する
 日付時刻フィールドやデータベースメンテナンスのバックアップ時刻などの時刻入力形式
 をドロップダウン形式に変更できます。
- ログイン画面やエラー画面に任意のURL を設定する ログイン画面や「ログインしてください」などUnitBase のエラー画面上に任意のURLを設 定できます。
- シングルサインオンヘッダー認証の設定
 UnitBase へのHTTP リクエストヘッダーにUnitBase のログインID が設定されている場合に、そのログインID でUnitBase にログインする機能の設定です。
- レコードURL を開いたときにレコード一覧の高さを1 行分にする設定 通知メールの本文などに含まれるレコードURL を開いたときにレコード一覧の高さをレ コード1 行分に設定できます。
- 1 ユーザーあたりの決裁ライン数の変更 一人のユーザーが設定できる決裁ラインの最大数を変更できます。
- データベースを移動してもURL が変わらないようにする設定
 データベースやデータベースの要素(フィルターやレコードなど)のURL はデータベース
 を移動すると変更されるため、データベース移動前のURL でアクセスすることができなくなります。データベースを移動してもURL を変更しないように設定できます。

その他さまざまな設定



ご利用の環境や目的に合わせたさまざまな設定(続き)

- フォルダー所有者の権限の変更 フォルダーの所有者はフォルダー配下のデータベースの所有者権限を持ちますが、データ ベースについては所有者権限を持たないように変更できます。
- ルックアップキーのレイアウト選択必須化
 ルックアップキーの設定時にレイアウトの選択を必須に設定できます。
- 見出しフィールドのリッチテキストの文字数上限の変更
 見出しフィールドの説明にリッチテキストを利用する場合の説明文の文字数上限を変更できます。
- メール送信時の同時接続数の設定

UnitBase の通知メール送信時は、初期状態で最大5 スレッド同時に接続して送信メール サーバーに接続を行いますが、送信メールサーバーで同時接続数が制限されているとメー ルが送信されないなどの問題が発生する場合があります。その場合は、同時接続数を変更 できます。

● 差分更新基準日時のマージンの設定

外部データ連携のRDBの取り込みでは、差分更新基準日時以後のカラムを取り込み対象として処理できますが、RDBに記録される値の誤差などのため差分更新基準日時の処理に マージンが必要な場合はマージンを設定できます。